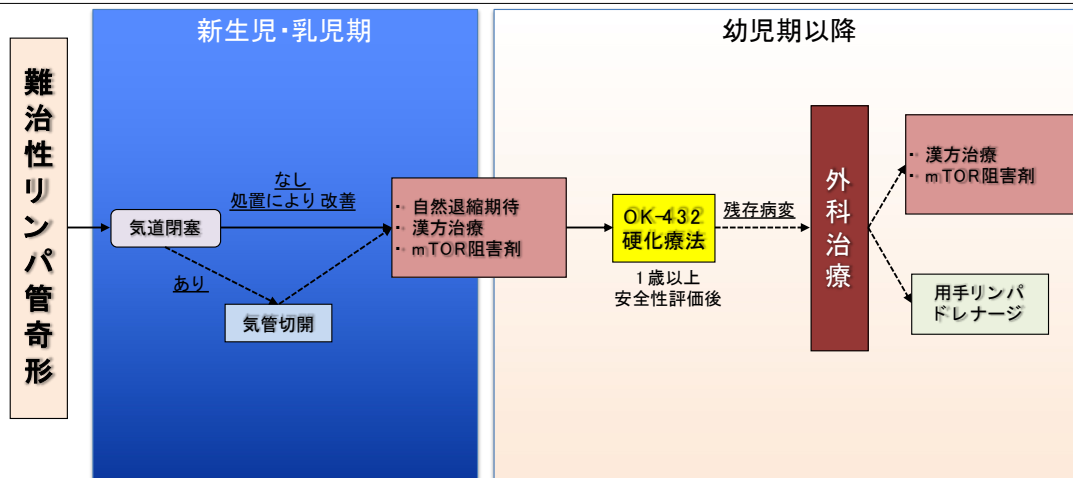


ニーズの概要

- リンパ管奇形における適正な分子標的薬治療のため、体細胞変異の分子生物学的検索および病理・遺伝子診断を計画しています。
- 集学的治療の中での治療の層別化を目指します

現状の課題

- リンパ管奇形は、その分子生物学的解析が、近年目覚ましい進歩を遂げており、PIK3CA遺伝子などの新規遺伝子変異が報告されている。
- 2021年よりmTOR阻害剤が本邦で世界で初めて保険収載され、その治療も大きく変化してきた。
- 教室では、従来の硬化療法および外科治療に、新規薬物治療を総合した集学的治療を行っている。
文野ら：頸部リンパ管腫に対する最新の集学的治療。小児科，2022。
- mTOR阻害剤の効果は症例により異なり、適正使用については課題も多い。また、mTOR以外の標的治療として、PIK3CA阻害剤が現在臨床試験が行われているが、これらの遺伝子変異およびその反応性について、確立された検査法はまだない。



ニーズ

- リンパ管奇形における体細胞変異の分子生物学的検索や病理・遺伝子診断を行い、治療の層別化を目指し研究を行っています。
- mTOR阻害剤は高価な薬剤であるため適切な患者に対し投与を行うべきであり、その適応の検査方法として遺伝子検査以外にも免疫染色が期待されます。
- 外科治療症例における免疫染色による変異遺伝子の適正診断、ならびにリンパ嚢胞液からのliquid biopsy診断を目指して、臨床研究を行っています。